

弁護士

水田 美由紀さん(54)

著者は、私たち法曹界の人間にとっても有名な人です。今回とは別の著書「要件事実マニュアル」は実務家だけでなく、法学部生や法科大学院生にとっても必携の書。私自身も事務所の書棚に置き、日々使わせてもらっています。

私とほぼ同世代でもある著者がどんな本を書いたのか興味湧き、取り上げることにしました。

「現職の裁判官が、裁判所の内部事情を『暴露』」。本の帯に書かれた文言です。暴露といっても、内容は過激ではありません。一般の人に遠い存在であり、法曹界の中でも特にベールに包まれた裁判官という仕事について、分かりやすく解説しています。法律用語を知らなくても、スッと文章が頭に入ってきます。

前半は、著者が司法試験に合格後、司法修習生時代や新人裁判官として働き始めたころを振り返りながら、昔の裁判所について紹介しています。

法曹三者、つまり裁判官、検察官、弁護士になるには司法試験に合格し、司法研修を受けます。当時の研修期間は2年間あり、座学と実務研修を受けた後、私は弁護士になり、著者は裁判官になりました。

平成初めのその当時、研修先や職場の先輩と毎夜のようにお酒を飲みに出掛けたも

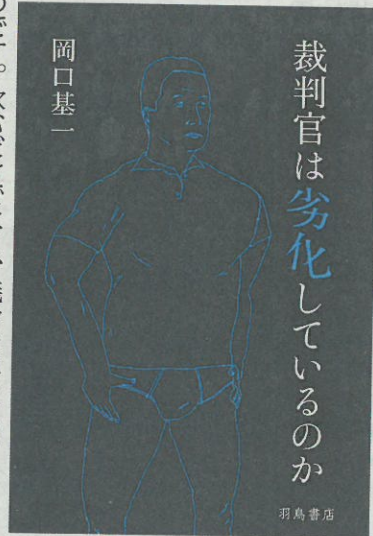
裁判官は劣化しているのか

岡口基一著

(羽鳥書店、1800円・税別)

近刊私の1冊

読書三昧



裁判官は劣化しているのか

岡口基一

のです。飲むだけでなく、議論を通じて知識を得る場、司法への熱意を教えてもらう場であったように思います。本書にも『飲みニケーション』によって職場の濃密な人間関係が形成されていた」とあります。著者も私も新人時代から30年近くたった今、飲みニケーションの終焉を少し残念に感じています。

著者は、先輩の裁判官から後輩へ、いわば口頭で伝えられていた裁判のテクニクや知識、本書で言うところの「智」が継承されなくなり、裁判官が劣化していると指摘しています。司法制度改革の名の下に法曹人口が増え、十分な教育を受けることが研修所でも現場でもできないまま、裁判を担当する現状がある中で、例えば類似事件の判決を探し出し、判決理由を「コピペ」するような若手裁判官も出現しているとい

存在 分かりやすく

権威主義的な組織についても、著者は遠慮なく批判しています。裁判官は人を裁く立場です。国民と同じ目線に立ち、同じ空気を吸いながら、その上で法律のロジックを使いこなす。それでこそプロと言えるのではないかと。全編を通じ、そのように読み取ることができました。

インターネット上に白ブリーフ姿を投稿したり、書き込んだ発言が最高裁から戒告処分を受けたりするなど、裁判所外での言動が目ざれがちですが、裁判官の劣化に強い危機意識を持つ、ある意味普通の裁判官であることが感じられると思います。

4月になり、新人が各職場に入ってきました。飲みニケーションが少なくなり、若手と中堅・年配世代のやりとりがうまくいかないという話は、企業に勤める人からもよく聞きます。ビジネス本として読んでも、いろいろと考えさせられるかもしれませんね。

さて、著者は裁判官を劣化させないためにどうしたらいいと考えているのでしょうか。ぜひ実際に本を読み、皆さんの環境に置き換えて考えてみてください。

(談) 聞き手・井上光悦

「読書三昧」は水田美由紀さんら5人が交代でお薦めの本を紹介、毎週火曜日に掲載します。

皮膚トラブルの悩みを持っていらっしゃる方は多いと思います。当店ではそんな方にいつも自信をくれるのが「マムズケア」と「延寿湯温泉」のベストセットです。マムズケアは皮膚表面の黄色ブドウ球菌を濃透させます。また延寿湯温泉は9種類の漢方成分が芯から血行を良くし、お肌を保湿・保護して実感のこのセットをぜひお試しください。

シライシ薬局

TEL 086-255-7213 (24時間受付)

岡山市北区白石西新町8-111

【受付時間】9:00~19:00

【定休日】日曜・祝日 商品発送可

申し込み・問い合わせ

0120-845-575